東日本大震災発生前の取組み

今の**「明日への架け橋kasaoka」**の取組みは笠岡商店街の取組みが基本となっており、震災前の平成20年・21年にすでに**「全国ぼうさい朝市ネットワーク事業」**を展開している。

・全国ぼうさい朝市ネットワーク事業とは
加盟する南三陸・酒田・飯山・大阪・鹿児島・笠岡等の十数地域の商店街がネットワークを組んで、有事の際にぼうさいネットワークで支援する訓練として加盟の地域の商店街へ物産販売と防災訓練をドッキングさせたぼうさい朝市を実施。全国から救援物資として特産品が送られ、炊き出しとして例えば酒田からいも煮の調理器具、材料と共に人もかけつけ、調理し販売を行う。

笠岡での取組み

・平成21年1月
第1回目の笠岡でのぼうさい朝市実施。
・平成21年12月
第2回の笠岡ぼうさい朝市を実施。
・笠岡からも全国の商店街でぼうさい朝市があるときは、物や人の派遣を行っていた。（平成22年10月ごろ南三陸で実施したぼうさい朝市へ笠岡からも参加している）
震災前から商店街の活動を通じて全国的な連携が組まれ、顔の見える関係が構築されていた。

なぜ、笠岡が南三陸への復興支援活動を行うのか？震災前からぼうさい朝市を通じて南三陸おさかな通り商店街の方々とのつながりがあったからである。志津川小学校避難所・・及川善祐氏（及善蒲鉾店）、志津川中学校避難所・・山内正文氏（山内鮮魚店）が中心的な役割を果たしていた。

東日本大震災発生

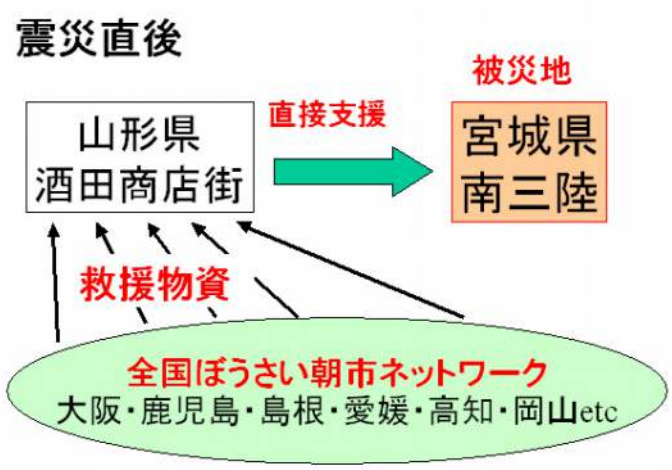
・笠岡諸島での被災者の引き受け開始（かさおか島づくり海社）
・元気笠岡推進協議が商店街と島づくり海社・社協を繋ぐ形で3月23日に**「笠岡希望プロジェクト」**を発足させる。
翌日3月24日～28日の間南三陸第1次先発隊4名を派遣、直接支援を実施。
・全国ぼうさい朝市ネットワークでは、東京の藤村氏を通じ、直接南三陸の山内氏・及川氏と連絡をとり必要な物資を全国から南三陸ではなく隣の酒田へ集めて酒田から直接届けるルートで支援を18日からはじめる。

笠岡ぼうさい朝市実施（震災前）

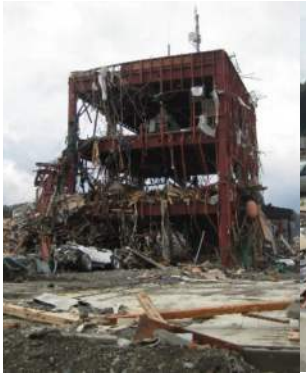
山形酒田いも煮の炊き出し販売　隣の寄島から牡蠣の救援物資

笠岡ぼうさい朝市実施（震災後）2011.4.17

震災後、笠岡へ10地域が集結し絆を確認！



東日本大震災発生直後の様子（宮城県南三陸町）


被災直後の防災庁舎

基礎のみを残して全て流される

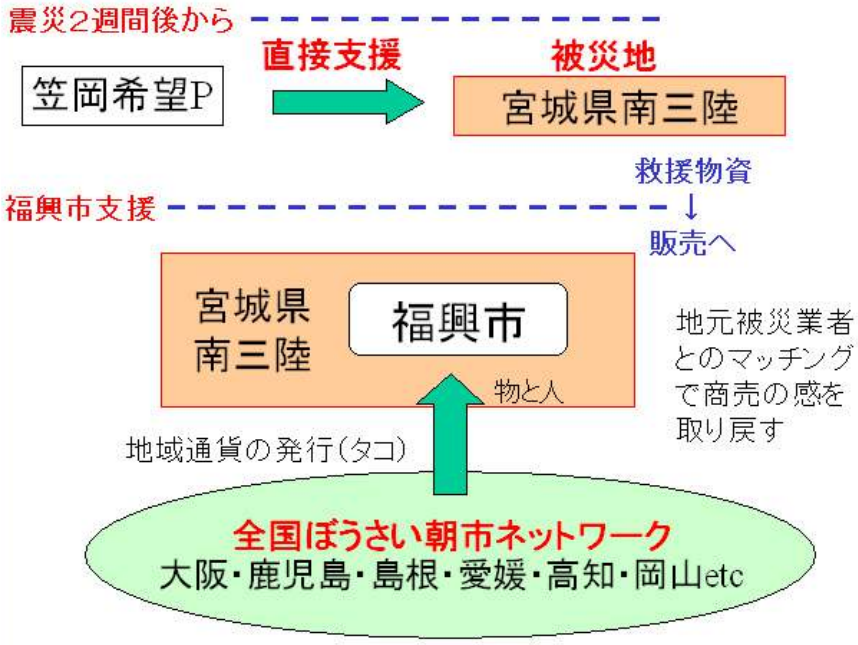
3階建ての屋上に車が流されている

炊き出しをに並ぶ避難所の被災者

押し寄せた津波は南三陸の故郷を全て奪った

山積みされている救援物資
町の職員や市民が大勢犠牲になっており、分別する人がいないため物資があっても届かない。（例えば、衣料にしても性別、夏物か冬物か、サイズ別などの分別をしないと利用できない。分別を意識して、支援物資を送らないと善意が活かされない。）

このような現状の中で先発隊は3月24日～28日まで南三陸へ、ボランティアセンター立ち上げ支援と被災地をとにかく見て情報発信して欲しいという及川さんの言葉に応えるべく各避難所めぐりを行う。この時出合った大久保の遠藤さん、袖浜の遠藤さんにはそれ以後も毎回お宅を訪問し様子を伺う。震災から2週間余りで幾分落ちつきかけていたが、身内をなくした職員の方々が不眠不休で頑張る姿に心打たれると共に、明るく接してくれる皆さんの対応に本当に救われた数日間。現地と顔を見ての支援の必要性を強く感じた。



笠岡の南三陸の支援は往復2600kmをこの福興ワゴンが繋ぐ！
商店街として商業の復活・・福興市へ

南三陸福興市支援（4月から毎月最終日曜日に開催）

商店街つながりからの支援⇒救援物資から販売への転換

4月29日･30日第1回福興市支援

物がない⇒全国ぼうさい朝市ネットワークや近隣の町から物資を調達・支援。
お金がない⇒タコ券（地域通貨の発行）
店をやっていた人が市に関わる⇒南三陸の店名を併記しマッチングし、商売の感を戻す。
（EX:千葉のり店と笠岡とのマッチングで笠岡の海苔を売る）

笠岡の海苔を販売する千葉姉妹

⇒実はここが皆さんの安否確認の場にもなった。

笠岡からの物資
（地元に物資が無い時期）
・4月干拓牛の丸焼き・挽きたてコーヒー・バラ・化粧品等（商店街が応援するので商品の種類が多い）
・5月サンマの灰干し・海苔・お菓子等
・6月瀬戸内のタコの串焼き・天ぷら・タコ釣りゲーム等
（地元の物資が出始める）
・7月ソックス等・タコ釣り・及川さん、千葉さんのテント応援
・8月及川さんに復興ダコ横断幕を贈る。
・9月貝殻クリップの製作ブース
・11月千葉海苔店看板製作等

5月灰干しサンマの支援販売

7月及善蒲鉾店の販売支援

9月子どもの遊び場たこつりゲーム

看板製作支援

被災地南三陸に学ぶ

支援活動の目的には被災地を訪れて実際に自分の目で見て、いろいろな人に話を聞き教訓にするということがあります。

毎月被災地を訪れ、前向きにチャレンジされている皆さんを応援しています。

千葉海苔店千葉さん

高貞菓子店高橋さん

袖浜遠藤さんご夫婦

及川さんと「山内さん

大久保遠藤さん

その後の支援活動は

・南三陸の皆さんのニーズにあった支援とは？
・被災地の教訓に学ぶ。
・遅々として進まない復興、東日本大震災を風化させない。

今さらではなく！
落ち着いてきた今
だからこそ出来ること
が沢山あります。

継続的な支援の為には

・平成23年4月以降は高速料金も有料化され、災害復興という観点からの補助もなくなり、1回の福興ワゴン運行に約10万円の費用がかかっています。その経費捻出の為の募金活動や報告会・研修会等を精力的に実施しています。1回の福興ワゴン運行で最大8名の方を被災地へ食費・宿泊料実費のみでお連れすることができます。
これからは、物から心の支援が本当に大切になると思っています。毎月の福興市への参加を通じて、被災地に寄り添う活動に大勢の市民の方を巻き込んで行くことが、被災地支援と共に自分たちの防災意識を向上させることにつながると思っています。

物から心への支援（仮設住宅訪問・福興市では子どもの遊び場作り）

第13回派遣4月

第14回派遣5月

第15回派遣7月

第16回派遣8月

第17回派遣9月

第18回派遣10月

活動は笠岡でも広がっています。

高校生VYSのメンバーが南三陸支援販売

百縁笑店街で復興支援の活動

新吉中の総合学習で支援活動、募金、遊びグッズ

浴衣プロジェクト活動報告会

防災関係、地域づくり関係の報告会を兼ねた広報活動を展開しています。関心のある各種団体・地域への講演活動を行っています。費用もかかりませんのでお気軽にお声かけください。なおご寄付いただいた資金につきましては「明日への架け橋」Kasaokaの活動資金にさせていただきます。